

# 図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立初音が丘小学校 板谷 真智子

1. 日時・場所 令和元年9月26日(木) 第3・4校時

2. 学年・組 第5学年1組 38名

3. 「学習の方向性」から題材へ

## 「学習の方向性」

感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。

## A表現(2) 絵や立体に表す活動

### 子どもたちの姿

- ・図工の時間は、楽しみながら創作活動に取り組む児童が多い。
- ・自分の表したいことをどのように表現したらよいかわからない児童もいる。
- ・じっくりと自分の作品と向き合い、形や色などにこだわって表現するという意識が全体的に低い。

### 教師の願い

- ・自分が表したいことを教師や友達に伝えながら、いろいろな表現方法を楽しんでほしい。
- ・自分の作品にこだわりをもって表現することができるようになってほしい。
- ・友達の発想や表現のよさやおもしろさに気づき、お互いに認め合うことができるようになってほしい。

## 題材名

### 「探検！とっておきの秘密基地」

～ 紙を立てて、楽しい秘密基地を形と色で効果的に表そう ～

A表現(2)

## 題材目標

- 四角形の工作用紙を組み合わせて立てることに関心を持ち、自分が表現したい形を表現することを楽しむようにする。
- 「秘密基地」というテーマから自分が表したいことをイメージし、効果的に形を組み合わせた色を考えたりしながら表し方を構想し、工夫して表すようにする。
- 友達と作品を見合い、作品の意図や特徴、表し方の変化を感じ取るようにする。

## 題材について

本題材は、工作用紙の上に木工用接着剤で紙を立てることをきっかけにして、自分の発想を広げていくものである。「秘密基地」というテーマから自分のイメージを広げ、それを表現するために、いろいろな大きさの四角形の紙を組み合わせた色に目を向けたりすることができる題材である。「秘密基地」というテーマから立体的に表現していくことをとらえやすく、奥行きにも意識を向けやすいと考える。

## ○学習の主題にかかわる育む資質・能力と本題材との関連

- ・工作用紙の組み立て方や色を考える活動を通して、自分のイメージしたものに近づけられるように試行錯誤を繰り返そうとする造形への意欲につながる。
- ・「秘密基地」というテーマをもとに、感じたことや想像したことから表したいことを構想する能力を培う。
- ・四角形の工作用紙の大きさや色の特徴を生かして組み合わせ方を変化させる活動を行うことで、効果的に組み合わせる創造的な技能を育てる。

○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ

〔共通事項〕

- 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

四角形の工作用紙の大きさや色に注目し、立体的に組み合わせることを通して、自分のイメージに合ったものを表現すること。

4. テーマに迫るために

部会テーマ

効果的につくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

- ・「秘密基地」という言葉からイメージすることをイメージマップにすることで、言葉から形へとイメージ化を図る。
- ・人形フィギュアを用意し、その人形目線で「秘密基地」をipadでテレビ画面に映して見せることで、子どもたちの創作意欲を高めるようにする。

○場の設定の工夫

- ・友達の作品を参考にしたりアドバイスし合ったりできるように、3～4人グループをつくる。
- ・立て方の見本や色の組み合わせによる感じ方の違いの見本を掲示することで、自分のイメージにあったものを選択できるようにする。
- ・土台になる工作用紙は、何度も作り直すことができるように多めに用意しておく。
- ・土台となる工作用紙のサイズを固定することで、友達と同じ世界観の中で創作できるため、お互いに影響し合えるようにする。

○共感的支援の工夫

- ・活動が停滞している児童には、友達の作品を見る時間をつくることで、参考にしながら活動できるようにする。また、対話しながら思いやイメージを聞き出し、それを表現するためにはどんな色や形にするかなど効果的に表す方法をいっしょに考える。
- ・形や色から自分のイメージに合う表現をしている児童を取り上げ認めていくことで、創作意欲を高めるようにする。

○小中一貫の視点

- ・これまで感じたこと、想像したことなどから表したいことを構想して表現する経験を数多くしてきている。本題材は、表したいことに合わせて材料の特徴を生かして効果的に表現することを意識できるようにしたい。これは、中学校での美術での「形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する」につながると考える。

5. 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	○四角形の工作用紙を組み立てることに関心をもち、自分が表したいことに向かって作り続けようとしている。
発想や構想の能力	○「秘密基地」というテーマから自分が表したいことをイメージし、形を組み合わせたり色を考えたりしている。
創造的な技能	○四角形の工作用紙の特徴を生かして、自分が表したいことに合った形や色の組み合わせを工夫している。
鑑賞の能力	○友達と作品を見合い、作品の意図や特徴、表し方の変化を感じ取っている。

6. 指導と評価の計画 3時間

ア どんな「秘密基地」にしたいか考えよう。(20分)

イ とっておきの「秘密基地」をつくろう。(90分)

ウ 「秘密基地」を探検して、友達の作品のいいねポイントを見つけよう。(25分)

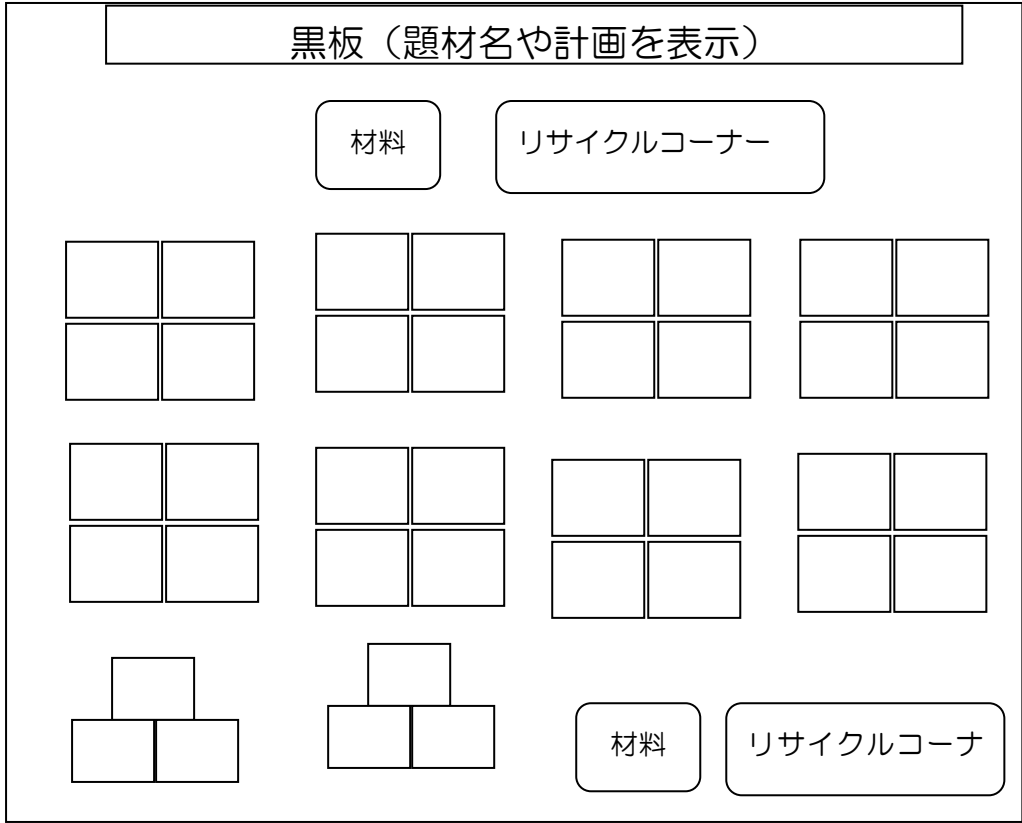
	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
1	<p>○四角形の工作用紙を組み立てて作ることを知る。</p> <p style="text-align: center;">ア どんな「秘密基地」にしたいか考えよう。</p> <p>○「秘密基地」という言葉から連想することをイメージマップに表す。 ・「秘密基地」ってどんなものかな。</p> <p>○自分が作りたいものをイメージする。 ・どんなふうに組み立てたらいいのかな。 ・並べる、のせる、つなげる? ・色が違うと感じ方が違うな。</p> <p>○道具の使い方を確認する。</p>	<p style="text-align: center;">関</p> <p>四角形の工作用紙を組み立てることに興味をもつことができる。</p>	<p>○組み立て方の基本パターンを児童から引き出す。</p> <p>○「秘密基地」という言葉からどんなことを連想するか、全体で共有する。</p> <p>○カッターの使い方、接着の仕方を確認する。</p>
2	<p style="text-align: center;">イ とっておきの「秘密基地」をつくろう。</p> <p>○四角形の工作用紙を切って、色や形を工夫して組み立てていく。 ・この形は面白いな。 ・どうやって組み立てようかな。 ・色をどうしようかな。</p> <p>○友達の作品を見て、アイデアを共有する。 ・こんな組み立て方があるのか。面白そう。</p>	<p style="text-align: center;">関</p> <p>四角形の工作用紙を組み立てることに興味をもち、自分が表したいことに向かって作り続けようとしている。</p> <p style="text-align: center;">発</p> <p>「秘密基地」というテーマから自分が表したいことをイメージし、形を組み合わせて色を考えたりしている。</p> <p style="text-align: center;">技</p> <p>四角形の工作用紙の特徴を生かして、自分が表したいことに合った形や色の組み合わせを工夫している。</p>	<p>○児童から引き出した組み立てパターン以外にも教師からも提示することで、イメージを広げられるようにする。</p> <p>○活動が停滞している児童には、思いを聴き取り、どんな大きさや色にするとそれが表現できるかをいっしょに考えるようにする。</p> <p>○ほかの友達の作品を見る時間をつくることで、参考にしながら活動できるようにする。</p>
3	<p style="text-align: center;">ウ 「秘密基地」を探検して、友達の作品のいいねポイントを見つけよう。</p> <p>○人形を「秘密基地」に置いて、見てほしいポイントを作品カードに書く。 ・～な秘密基地にしました。～の</p>	<p style="text-align: center;">鑑</p> <p>友達と作品を見合い、作品の意図や特徴、表し方の変化を感じ取っている。</p>	<p>○自分の代わりに人形置くことで、自分の作品により愛着をもてるようにする。</p>

	<p>ように表すために、～を工夫しました。</p> <p>○友達と作品を見合って、作品の意図やよさなどを見つける。</p>		<p>○ipadを使って置いた人形の目線で「秘密基地」を撮影し、テレビ画面に映す。</p>
--	---	--	---

7. 準備

- 児 童： 木工用接着剤、はさみ、定規
- 教 師： 方眼カードフォルム、土台用工作用紙（10cm×10cm）、カッター台、カッター、画用紙（鑑賞展示用）、人形フィギュア（鑑賞展示用）、ipad

8. 場の設定 （教室）



## 9. 研究内容についてのふりかえり

### 1. 「学習の方向性」と〔共通事項〕を基にしたカリキュラムマネジメントについて

今回は、テーマから自分のイメージを広げ、それを表現するために効果的に紙の立て方や色の組み合わせを工夫するという題材を設定した。表現方法を知らせてから、「秘密基地」という主題を提示し発想や構想を広げていくことで、効果的に形や組み合わせたり色を考えたりした。

「形や色で効果的に表現する」ということを、具体的に「紙の立て方」「紙の色の組み合わせ方」を工夫することと伝えることで、その2点を意識して活動に取り組んでいた。

### 2. 子どもが主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりについて

「秘密基地」という言葉から「こんなことができる」「こんな場所にある」など具体的な情景をイメージさせ、簡単なスケッチに表した。「秘密基地」という言葉自体が児童のこれまでの経験や知識をもとにすると、少しイメージしにくいものだったようで、「家」や「建物」をイメージしている子どもが多く見られた。考え込んでいる児童もいたが、具体的に質問をしながらイメージスケッチをかいていた。

制作中は、友達同士で紙の組み立て方を教え合ったり、「この秘密基地は、こんなことができるよ」と会話をしながら作ったりしていた。自分の表現したいことが明確になると、集中して黙々と作る児童が多く見られた。予定では2時間で完成だったが、3時間かかった。時間がかかった理由の一つとしては、秘密基地の中の置物や装飾品などに目が向いて、それを作るのに時間がかかってしまったということが挙げられる。もっと紙の立て方に意識を向けられるような手立てをすべきだった。また、どんな秘密基地なのか、どうしてその色にしたのかななどを問うと、個人差はあるが、多くの児童が「〇〇のようにしたかったから」と理由を述べることができていた。

これまでは、自分の作品にじっくりと向き合ったり、思いをもって表現したりすることが難しい児童が多かったが、今回は自分の作品にこだわりをもって表現することを楽しむ姿が多く見られた。